

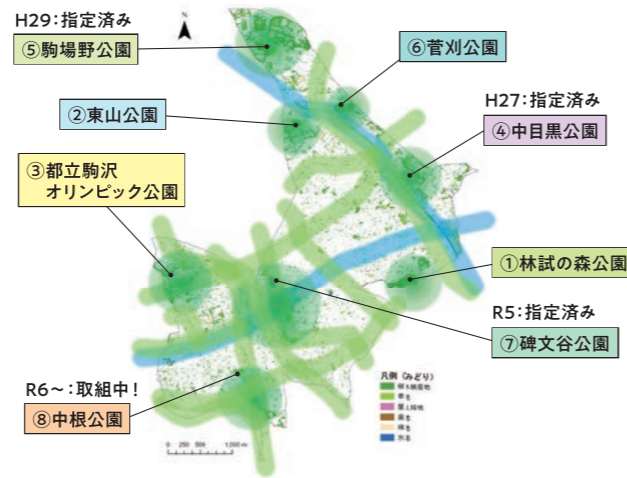
目黒区の実践紹介

目黒区のさまざまないきものを守るための取組として、生物多様性保全林事業を紹介します。生物多様性とは、いきものたちの豊かな個性が間接的につながり、支えあっていることをいいます。

生物多様性保全林事業

目黒区では、区内の公園や公共施設等で、みどりの保全やいきもの生息拠点としての機能向上を図り、いきもの生息拠点となっている場所を生物多様性保全林に指定しています。そのため、現地の生物調査、地域住民やボランティア団体と連携し、将来像や目標、管理方針等を定めて自然環境の保全・回復に向けた取り組みを行っています。

区内で特に優れた自然環境を有する公園や大学等の持続性が高い緑地等の8つのエリアを「めぐろの森」として設定し、みどりの保全と緑化を推進しています。今回はそれぞれの「めぐろの森」にある公園について、生物多様性保全林事業の内容や観察スポットを紹介いたします。



1 下目黒不動の森 都立林試の森公園

P14~15 みどりの散歩道で詳しく紹介します!

2 東山の森 東山公園

池尻大橋駅から徒歩6分



- 「草はら広場」や「スポーツ等広場」があります。
- かつて建設省国土地理院があった場所です。

おすすめスポット



いきものを保全している場所は入らないようにしましょう

3 東が丘の森 都立駒沢オリンピック公園

駒沢大学駅から徒歩15分



- 目黒区と世田谷区にまたがる公園です。
- 1964年の東京オリンピックで第2会場として使用されたあと、公園として整備されました。

おすすめスポット



4 中目黒の森 中目黒公園

中目黒駅から徒歩12分



- 「いきもの池」や「みんなの花壇」はボランティアの方が管理しています。
- 「花とみどりの学習館」は、学びの場になっています。

おすすめスポット



5 駒場野の森 駒場野公園

指定済み

駒場東大前駅から徒歩1分



- 明治時代に駒場農学校が開校し、教育・研究の場になりました。
- その跡地が公園に整備されました。

主な取組



樹林地の保全(そだ柵の設置)



大池のかいぼり

おすすめスポット



柵の内側には入らないようにしましょう。

駒場野公園の管理運営計画書はこちら



6 菅刈西郷山の森 菅刈公園

指定済み

中目黒駅から徒歩13分 / 代官山駅から徒歩13分



- 芝生広場や子どもの遊び場、緑地を保全する区域など、多様なエリアがあります。

主な取組



木こり体験



野草の標本づくり

おすすめスポット



芝生を養生している場所は入らないようにしましょう。

7 碑文谷の森 碑文谷公園

指定済み

学芸大学駅から徒歩6分



- 公園内に「弁天池」があります。
- ウサギやポニーなどのいきものにも触れ合えます。

主な取組



エコスタックの設置



いきもの保全ゾーンの創出

おすすめスポット



碑文谷公園の管理運営計画書はこちら



8 大岡山中根の森 中根公園

R8年度 指定に向けて取組中

都立大学駅から徒歩7分



- かつては「岡田の森」という愛称で地域に親しまれ、アカガシなどの巨木が生えています。

主な取組



近隣小学校との合同調査



外来種駆除(ツタバウンラン)

おすすめスポット



希少種を保全しています

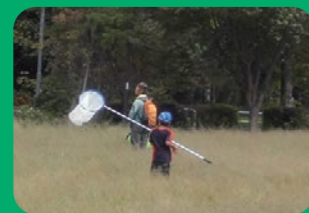
いきもの住民会議

目黒区では、自然通信員の区民のみなさまの調査能力向上のため、研修や交流会を目的とした「いきもの住民会議」を年1回行っています。開催時期や場所、内容は年によってちがいます。

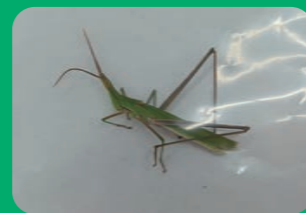
今年は、令和7年9月28日(日)に東山公園で、日本アンリファール会の梅田先生をお招きし、「目黒区に棲むバッタ類・コオロギ類・キリギリス類」をテーマに、学習会を実施しました。当日は、屋内でバッタの体のしくみや、バッタの食べもの(食物連鎖)についての講義を行った後、公園内で昆虫採集を実施しました。ショウリョウバッタやクビキリギリスなど多くのバッタ類を捕まえ、観察を行いました。



講義の様子



昆虫を採集!



ショウリョウバッタやオンブバッタを発見!



トンボやチョウも
つかまえたよ!

バッタのなかまを観察しよう!



何か跳んだ!

1 探す

背丈の高い草丈にゆっくり近づき、いきものをさがしましょう。バッタのなかまは近づくたびにジャンプするので見つけやすいです。



つかまえた~!

2 ねらいを定めてかぶせる

バッタを見つけたら、網を上からかぶせます。そのまま網を地面におくと虫が逃げないよ!



元気に
ジャンプ
してる!

3 捕獲する

網の上部を手で持ち上げると、逃げようとしてバッタがびよびよん跳びます。網の上のほうに跳んできたタイミングで網をつかんで捕まえます。



観察が
終わったら、
元の場所に
戻そう!

4 観察する

網ごと虫かごに入ると虫が逃げにくいです。じっくり観察しましょう!

自然通信員という制度に登録すると、このような観察会の案内が届きますので、是非ご登録ください。詳しくは裏表紙へ!



監修者コラム

バッタの仲間は、昔も今も人気者

斉藤 秀生

バッタの仲間は、ジャンプするのに適した後脚あしを持っているのが特徴です。また、コオロギやキリギリスは、秋の夜長によく鳴くので、古くから和歌や俳句に詠まれたり、観賞用に飼われたりしていました。以前、私が実施した小学生の遊びの調査では「バッタ採り」がベスト10に入っていました。

バッタの暮らしのお話

バッタ類は草丈で植物の葉を食べるものが多いですが、ケラやコオロギのように地中で暮らすものから、カネタタキやクダマキモドキのように樹上で生活するもの、イボバッタやノミバッタのように草の生えていない裸地に好んで生息する種もいます。

また、イソップ童話の「アリとキリギリス」のように、ほとんどの種類は卵を産んで晩秋までには成虫が死んでしましますが、クビキリギリスやツチイナゴは、成虫のまま越冬し翌年の春まで生きていて晩春から初夏に卵を産むという種もいます。



ツチイナゴ



アオマツムシ

外来種のお話

バッタ目では有名な外来種と言えば、アオマツムシとウスグモズです。アオマツムシは明治には日本に入っていたようですが、急激に増えたのは1970年ごろからです。

外灯のついた街路樹沿いに各地に広がり、今では郊外の雑木林などでも普通に見られます。ウスグモズも1960年代に渋谷の民家の庭で発見され、それ以降公園の林や郊外の雑木林で普通に見られるようになりました。残暑が収まるころ都市の公園では、うるさいくらいアオマツムシの合唱が聞かれます。これでは、他の鳴く虫の声が聞こえません。



ウスグモズ

在来種にも危機が...

近年関東の平地で急激に減ったのは、マツムシやショウリョウバッタモドキ、クルマバッタなどです。

安定した草丈の高い草むらやスキの草地が減り、秋から冬にかけて完全に草を取り払ってしまう広場などが多くなったことが原因です。他の種類も同じですが、バッタ類の多くは地中に卵を産むので、秋から翌春の間に地面の土を動かしてしまったり、あまり草むらをきれいにしてしまうと、今年いた所でも翌年から同じ場所で見られなくなってしまいます。



ショウリョウバッタモドキ

Green Walking Path

みどりの散歩道

みなさんは「みどりの散歩道」を知っていますか？
「みどりの散歩道」は、「まちを見る、知る、耕す」をテーマに、季節の花や木などの身近な自然を楽しみながら、目黒区の歴史などを知り、誰でも散策できるように設定された散歩道です。ぜひ、「みどりの散歩道」を気ままに散策し、のどかで魅力的なまち「めぐろ」を再発見してみてください！

今回は「不動コース」をベースに、
バッタ目のいきものを探しながら散歩してみました！

スタート	目黒駅
1	太鼓橋
2	目黒寄生虫館
3	不動公園
4	目黒不動尊瀧泉寺
5	都立林試の森公園



1 太鼓橋

江戸時代は石でできたアーチ状の橋でしたが、1920年の雨で流されてしまい、今はその名前が残されています。

2 公益財団法人 目黒寄生虫館

下目黒4-1-1
目黒駅(西口)から徒歩12分



- 1953年に創設された寄生虫学を専門に扱う私立博物館です。
- 約300点の標本や関連資料を展示しています。
- 寄生虫の多様性や人体に関わる寄生虫についても学べます。

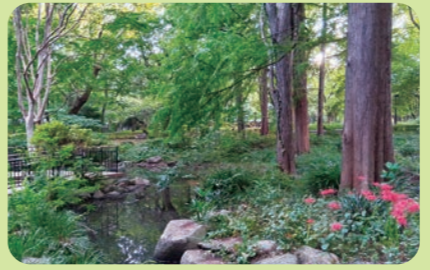
創設者・名誉区民 亀谷了氏
寄生虫の分類・形態の研究を主体的に行い、寄生虫館を世界有数の研究センターに育てたすごい人！

国内外から集められた約300点の標本は大迫力！

P7で紹介したハリガネムシの標本も発見！

5 都立林試の森公園

下目黒5丁目
武蔵小山駅から徒歩10分



- 明治33(1900)年6月に「目黒試験苗圃」としてスタートしました。研究施設が建てられて、樹木の研究が行われていました。
- 芝生広場に生えている「大きなクスノキ」は公園のシンボルツリー！他にも幹回り3mを超える巨樹がたくさんあります。
- 「緑を守るSDGsパークセンター」があり、生物多様性などについて学ぶことができます。

バッタを発見！

観察が終わったら、元の場所にもどそう！

コオロギを発見！

3 不動公園

下目黒3-21-9



不動公園でひとやすみ

みどりの散歩道のコースガイドは、目黒区総合庁舎4階広報聴課窓口などで購入することができる他、区公式webサイトからダウンロードすることができます！
区公式webサイト上の「目黒デジタルアーカイブ100」では、みどりの散歩道コースを3Dデジタルマップで楽しむことができますので、ぜひご覧ください！



区公式webサイトはこちらから→

4 目黒不動尊瀧泉寺

下目黒3-20-26



808年に慈覚大師によって創建されたお寺で日本三大不動のひとつです。
江戸時代には三代将軍徳川家光が信仰していました。

住職さんにお話をききました！～昔は「鳴く虫」が売られていた？～
私が子どものころ、40年以上前までは、毎月28日の縁日になると、スズムシやマツムシ、クツムシなどが小さなかごに入れられて売られていました。境内のあちこちから虫の音が響き、とても賑やかだった光景を、いまでもおぼろげに覚えています。
虫売りは江戸時代から続く夏の風物詩で、寺社の縁日では、鳴く虫の音色を楽しむ文化がありました。私が子どものころの縁日にも、どこか懐かしさを感じる景色がまだ色濃く残っていたように思います。



目黒区で確認されているバッタ目リスト

(1)このリストについて

1. 目黒区が保有するいきもの情報※1をもとに、バッタ目を抜粋して作成した。

※1:目黒区都市整備部みどり土木政策課が保有する自然環境等に関する記録をデータベース化し、2009年にホームページなどで公開した「目黒区いきもの住民台帳暫定版」を基本とし、2025年までの記録を加えて更新したもの。種の同定資料がないために従前のリストから削除した記録もある。

2. 科の分類および科と科内の配列、学名は基本的に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(2025年11月27日更新)に従い、掲載されていない種の学名は出典を示した。

3. 保護上重要な種は、和名の後にランクを略称で記載した。略称とカテゴリー名と基本概念については表1に示した。

4. 外来種は、和名の後に「外」を記載した。

なお、特定外来生物や生態系被害防止外来種リスト、東京都外来種対策リストに記載されている種は確認されなかった。

(2)このリストの見方

①通し番号

②保護上重要な種には和名のあとにランクを記載した。

③年代別に目黒区内で確認された記録を「○」で表記した。

④最新の確認記録を町丁目単位で記録した。

科名	種名	目黒区の記録 観察年					
		70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
クツワムシ科	4 クツワムシ 都CR <i>Mecopoda niponensis</i>	○					
		1955/-/(大岡山1)					

例)初記録年月日(町丁目);最新記録年月日(町丁目)

丁目は町名の後に数字で示した。例)駒場1丁目⇒駒場1

公園など観察場所の明確な地名があるものはその名称を町丁名のあとに記載した。

観察日の詳細記録がない場合は「-」で示した。例)1972/6/-

表1. 保護上重要な種

	カテゴリー名	略称	基本概念(抜粋:詳細は原典を参照してください)※
国	絶滅	EX	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
	野生絶滅	EW	飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ 存続している種
	絶滅危惧I類	CR+EN	絶滅の危機に瀕している種
	絶滅危惧IA類	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
	絶滅危惧IB類	EN	IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
	絶滅危惧II類	VU	絶滅の危険が増大している種
	準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性があるもの
	情報不足	DD	評価するだけの情報が不足している種
	絶滅のおそれのある地域個体群	LP	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの
	東京都区部	絶滅	EX
野生絶滅		EW	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられるもの
絶滅危惧I類		CR+EN	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
絶滅危惧IA類		CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧IB類		EN	IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧II類		VU	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧		NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
情報不足		DD	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
留意種		※	現時点では準絶滅危惧のレベルではないが、相対的に数が少ない種であり、容易に個体数が減少することがあり得るため、その動向に留意する必要があるもの
非分布		非	生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの

※「環境省レッドリスト2020(2020:環境省)」及び「東京都レッドリスト(本土部)2020年版(2020:東京都環境局)」による

科名	種名	目黒区の記録 観察年					
		70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
カマドウマ科	1 カマドウマ <i>Atachycines apicalis apicalis</i>		○			○	○
		1982/7/30(洗足2<洗足二丁目児童遊園>);2021/8/17(中目黒1<目黒川>)					
	2 クラズミウマ※1 <i>Diastrammena asynamora</i>		○				
		1982/7/30(原町)					
	3 マダラカマドウマ <i>Diastrammena japonica</i>		○	○	○		○
		1982/10/14(中根2<中根公園>);2025/9/21(青葉台2<菅刈公園>)					
クツワムシ科	4 クツワムシ 都CR <i>Mecopoda niponensis</i>	○					
		1955/-/(大岡山1)					
ツユムシ科	5 セスジツユムシ <i>Ducetia japonica</i>		○		○	○	○
		1982/9/27(駒場2<駒場野公園>);2020/10/22(駒場2<駒場野公園>)					
	6 サトクダマキモドキ <i>Holochlora japonica</i>		○	○	○	○	○
		1986/6/1(駒場2<駒場野公園>);2022/9/10(駒場2<駒場野公園>)					
	7 ツユムシ <i>Phaneroptera falcata</i>		○	○	○	○	
		1981/10/17(駒場2<駒場野公園>);2018/9/26(中目黒2<中目黒公園>)					
	8 ヒメクダマキモドキ <i>Phaulula macilentia</i>					○	○
		2016/10/21(駒場2<駒場野公園>);2020/10/18(駒場2<駒場野公園>)					
キリギリス科	9 ウスイロササキリ <i>Conocephalus chinensis</i>					○	
		2010/8/26(中目黒2<中目黒公園>);2016/10/18(中目黒2<中目黒公園>)					
	10 ホシササキリ <i>Conocephalus maculatus</i>				○	○	○
		2004/10/22(中目黒2<中目黒公園>);2025/10/9(駒場2<駒場野公園>)					
	11 ヒメギス <i>Eobiana engelhardti subtropica</i>					○	
		2012/7/14(中目黒2<中目黒公園>)					
	12 クビキリギス <i>Euconocephalus varius</i>		○	○	○	○	○
		1982/3/11(東が丘2<国立病院東京医療センター>);2025/11/7(駒場2<駒場野公園>)					
	13 ヒガシキリギリス <i>Gampsocleis mikado</i>					○	○
		2019/7/13(中目黒2<中目黒公園>);2024/7/5(中目黒2<中目黒公園>)					
	14 ハヤシノウマオイ <i>Hexacentrus hareyamai</i>				○	○	
		2000/8/6(駒場2<駒場野公園>);2019/10/20(駒場4)					
	15 クサキリ <i>Ruspolia lineosa</i>						○
		2023/7/6(駒場2<駒場野公園>)					
ケラ科	17 ケラ <i>Grylotalpa orientalis</i>		○	○	○	○	
		1980/9/5(駒場2<駒場野公園>);2019/4/6(駒場2<駒場野公園>)					
マツムシ科	18 スズムシ <i>Meloidomorpha japonica</i>	○	○			○	○
		1955/-/(大岡山1);2025/10/2(大岡山1)					
	19 ヒロバネカンタン <i>Oecanthus euryelytra</i>					○	○
		2012/7/22(中目黒2<中目黒公園>);2023/9/21(駒場2<駒場野公園>)					
	20 カンタン <i>Oecanthus longicauda</i>		○	○	○	○	
	1982/-/(駒場2<駒場野公園>);2013/9/3(中目黒2<中目黒公園>)						
	21 アオマツムシ 外 <i>Trujalia hibinonis</i>		○	○	○	○	○
		1982/10/14(駒場2<駒場野公園>);2025/9/6(青葉台2<菅刈公園>)					

※1 東京23区ではごく限られた地域でしか正式な確認記録のない種のため、飼育されていた個体が野外で記録されたか、種名を誤って記録した可能性がある。

科名	種名	目黒区の記録 観察年					
		70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
コオロギ科	22 タンボオカメコオロギ <i>Loxoblemmus aomoriensis</i>				○		
	2005/8/7(駒場2(駒場野公園))						
	23 ハラオカメコオロギ <i>Loxoblemmus campestris</i>		○	○		○	○
	1982/9/29(中目黒2(防衛省技術研究所));2025/11/7(中目黒2(中目黒公園))						
	24 ミツカドコオロギ <i>Loxoblemmus doenitzi</i>			○		○	○
	1995/-/(三田2(目黒清掃工場緩衝緑地));2023/9/23(中目黒2(中目黒公園))						
	25 オオオカメコオロギ※1 <i>Loxoblemmus magnatus</i>		○				
	1982/9/29(中目黒2(防衛省技術研究所))						
26 モリオカメコオロギ <i>Loxoblemmus sylvestris</i>		○			○		
1987/-/(三田1);2018/11/21(駒場2(駒場野公園))							
27 エンマコオロギ <i>Teleogryllus emma</i>		○	○	○	○	○	
1982/10/1(駒場2(駒場野公園));2025/9/2(中目黒2(中目黒公園))							
28 ツツレサセコオロギ <i>Velarifictorus micado</i>		○	○	○	○	○	
1982/9/29(中目黒2(防衛省技術研究所));2025/10/9(駒場2(駒場野公園))							
29 コガタコオロギ※1 都DD <i>Velarifictorus ornatus</i>					○		
2013/8/27(駒場4(駒場公園));2013/8/28(青葉台2(菅刈公園))							
カネタタキ科	30 カネタタキ <i>Ornebius kanetataki</i>	○	○	○	○	○	○
1971/10/9(大岡山2);2025/10/9(駒場2(駒場野公園))							
アリツカコオロギ科	31 アリツカコオロギ <i>Myrmecophilus sapporensis</i>		○				
1982/7/21(碑文谷6(碑文谷公園))							
ヒバリモドキ科	32 ウスグモスズ 外 <i>Amusurgus genji</i>		○	○		○	
	1987/-/(三田1);2010/10/15(駒場2(駒場野公園))						
	33 マダラスズ <i>Dianemobius nigrofasciatus</i>		○	○	○	○	○
	1982/10/5(下目黒5(東京都立林試の森公園));2025/10/9(駒場2(駒場野公園))						
	34 キンヒバリ <i>Natula matsuurai</i>					○	
	2019/4/19(駒場2(駒場野公園))						
	35 ヒゲシロスズ <i>Polionemobius flavoantennalis</i>					○	
2010/10/15(駒場2(駒場野公園))							
36 シバズ <i>Polionemobius mikado</i>		○	○		○	○	
1982/9/29(中目黒2(防衛省技術研究所));2024/9/21(駒場2(駒場野公園))							
37 ヤチスズ <i>Pteronemobius ohmachi</i>		○			○		
1982/10/20(駒場2(駒場野公園));2014/7/15(駒場2(駒場野公園))							
38 クサヒバリ <i>Svistella bifasciata</i>					○		
2010/10/15(駒場2(駒場野公園));2013/8/28(青葉台2(菅刈公園))							

※1 東京23区ではごく限られた地域でしか正式な確認記録のない種のため、飼育されていた個体が野外で記録されたか、種名を誤って記録した可能性がある。

科名	種名	目黒区の記録 観察年					
		70年代	80年代	90年代	00年代	10年代	20年代
バッタ科	39 ショウリョウバッタ <i>Acrida cinerea</i>	○	○	○	○	○	○
	1978/11/11(大岡山2);2025/9/18(中目黒2(中目黒公園))						
	40 アカハネバッタ※2 国CR 都EX <i>Celes skalozubovi akitanus</i>						○
	2020/8/- (東が丘2)						
	41 クルマバッタ 都VU <i>Gastrimargus marmoratus</i>					○	
	2017/7/3(中目黒3);2017/7/3(中目黒3)						
	42 ヒナバッタ <i>Glyptobothrus maritimus maritimus</i>					○	○
	2019/8/6(中目黒2(中目黒公園));2023/8/10(中目黒2(中目黒公園))						
	43 ショウリョウバッタモドキ <i>Gonista bicolor</i>			○	○	○	○
1997/8/- (柿の木坂3);2021/11/3(中目黒2(中目黒公園))							
44 トノサマバッタ <i>Locusta migratoria</i>		○	○	○	○	○	
1982/9/29(中目黒2(防衛省技術研究所));2025/9/1(中目黒5)							
45 クルマバッタモドキ <i>Oedaleus infernalis</i>			○	○	○	○	
1995/-/(三田2(目黒清掃工場緩衝緑地));2024/7/5(中目黒2(中目黒公園))							
46 イボバッタ <i>Trilophidia japonica</i>		○		○	○	○	
1982/10/2(大岡山2(東京工業大学));2025/11/7(中目黒2(中目黒公園))							
イナゴ科	47 コバネイナゴ <i>Oxya yezoensis</i>	○	○	○	○	○	○
	1976/10/- (駒場2(駒場野公園));2025/11/27(駒場2(駒場野公園))						
	48 メスアカフキバッタ※1 <i>Parapodisma tenryuensis</i>						○
2025/8/3(五本木3)							
49 ツチイナゴ <i>Patanga japonica</i>					○	○	
2012/10/21(駒場2(駒場野公園));2024/9/21(駒場2(駒場野公園))							
オンブバッタ科	50 オンブバッタ <i>Atractomorpha lata</i>		○	○	○	○	○
1981/10/19(駒場2(駒場野公園));2025/11/2(東が丘1)							
ヒシバッタ科	51 トゲヒシバッタ <i>Criotettix japonicus</i>			○		○	○
	1999/10/9(緑が丘2(緑ヶ丘小学校));2025/6/5(駒場2(駒場野公園))						
	52 ハネナガヒシバッタ <i>Euparattix insularis</i>			○	○		○
	1998/9/17(緑が丘2(緑ヶ丘小学校));2024/4/17(駒場2(駒場野公園))						
53 コバネヒシバッタ <i>Formosatettix larvatus</i>					○		
2013/8/27(駒場2(駒場野公園));2013/8/28(青葉台2(菅刈公園))							
54 ハラヒシバッタ <i>Tetrix japonica</i>		○	○	○	○	○	
1982/4/16(柿の木坂1);2025/7/17(中目黒2(中目黒公園))							
ノミバッタ科	55 ノミバッタ <i>Xya japonica</i>			○	○	○	
1998/8/14(駒場2(駒場野公園));2016/5/20(駒場2(駒場野公園))							

※1 東京23区ではごく限られた地域でしか正式な確認記録のない種のため、飼育されていた個体が野外で記録されたか、種名を誤って記録した可能性がある。

※2 東京23区には分布しない種のため、飼育されていた個体が野外で記録されたか、種名を誤って記録した可能性がある。



バッタ目が見られるのは どんな場所？

(解析結果)



これまで見てきたバッタ目について、過去から2025年末までの54種1,888件*1のデータを用いて「観察種数が多い場所はどこか」「多く観察されている場所の環境*2はどのようなものか」という視点で解析を行いました。

特に観察種数が多かったのは、駒場2丁目(42種)、中目黒2丁目(30種)、青葉台2丁目(16種)でした。町丁目ごとにみると、草地在る割合が高いほど、観察種数が多い傾向がみられました(図1)。バッタ目はこのように草地在る公園やその周辺の地域で多く見られます。

特に観察例数が多かったのは、オンブバッタ(365例)、カネタタキ(282例)でした。これらも、草地在る割合が高いほど、観察例数が多い傾向が見られました(図2)。

オンブバッタは、背の低い草に生息するため、このような環境で多く観察されたと考えられます。カネタタキは、樹上性で林縁や人家の生垣などに生息しますが、駒場野公園や中目黒公園など草地在る環境で行われた専門家調査の際にも多く確認されたため、他のバッタ目と同じような傾向になったと考えられます。

*1: 確認地点の記録が町丁目まで残っているもののみを使用。
*2: 環境条件としてみどりの実態調査(目黒区:2024)の結果を使用。



図1.町丁目別の草地在る割合と
バッタ目の観察種数

図2.町丁目別の草地在る割合と観察例数が多い上位2種の確認状況

バッタ目が見られるのはこんな場所

- 1 草地在る公園やその周辺など
- 2 人家の生垣など、身近な環境で見られる種もある

●参考資料等
「原色鳴く虫検索図鑑」(2022 村井貴史)
「科学のアルバム トノサマバッタ」(2020 小田英智、佐藤有恒)
「バッタハンドブック」(2017 梶真史)
「小学館の図鑑 NEO 新版 昆虫」(2014 小池啓一、小野展嗣、町田龍一郎、田辺力)
「バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑」(2011 村井貴史、伊藤ふくお)
「田んぼの生きもの図鑑-昆虫編 バッタ目-」(2011 石川均)
「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和7年度生物リスト(国土交通省 水管理・国土保安局 閲覧日:2026年3月3日)」
<https://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/mizukokuweb/system/seibutsuList.htm>

●目黒区の資料
「目黒区みどりの基本計画」(2016:目黒区)
「目黒区のみどりーみどりの実態調査報告書ー」(2024:目黒区)
「目黒区生物多様性地域戦略ささえあう生命の輪 野鳥のすめるまちづくり計画」(2014:目黒区)
「めぐろのいきもの80選」(2014:目黒区)
「みどりの散歩道コースガイド改訂版」(2017:目黒区)
「目黒区いきもの住民台帳 目黒区の野鳥」(2015:目黒区)
「目黒区いきもの住民台帳 目黒区の蝶と蛾」(2016:目黒区)
「目黒区いきもの住民台帳 土をめぐる生物」(2018:目黒区)
「目黒区いきもの住民台帳 目黒区の蜘蛛」(2019:目黒区)
「目黒区いきもの住民台帳 目黒区の甲虫」(2020:目黒区)
「目黒区いきもの住民台帳 暫定版リスト」(2009:目黒区)
「目黒区いきもの住民台帳 目黒区の水辺のいきもの」(2021:目黒区)
「目黒区いきもの住民台帳 目黒区のハチ」(2022:目黒区)
「目黒区いきもの住民台帳 目黒区の野草」(2023:目黒区)
「目黒区いきもの住民台帳 目黒区の高生類・爬虫類」(2024:目黒区)
「目黒区いきもの住民台帳 目黒区の野鳥 Vol.2」(2025:目黒区)

●目黒区いきものみどりみらい計画
～ささえあう生命の輪 野鳥のすめるまちづくり～
<https://www.city.meguro.tokyo.jp/midori/kusei/keikaku/ikimonomidorimiraikeikaku.html>

●みどりの実態調査(令和5年度)
<https://www.city.meguro.tokyo.jp/midori/kusei/gaiyou/midoriittair05.html>

●自然通信員について
(事業の紹介、ニュースレターのダウンロードなど)
<https://www.city.meguro.tokyo.jp/kurashi/kankyou/shizen/yaseiseibutsu/jouhoukyoku/index.html>

●監修執筆 齊藤 秀生

●イラスト 水谷 高英
(区民による身近な生物調査環境学習資料)

●写真 自然通信員のみなさん、齊藤 秀生 ほか

●カラー版 ダウンロード
<https://www.city.meguro.tokyo.jp/kurashi/kankyou/shizen/yaseiseibutsu/juumindaichou/index.html>

めぐろグリーンデータブック 2025 目黒区いきもの住民台帳 ー身近に暮らすみどりのなかまたちー

目黒区のバッタ目 List of Orthoptera of Meguro City

発行 初版 2026(令和8)年3月31日 目黒区©
〒153-8573 目黒区上目黒2-19-15
目黒区都市整備部みどり土木政策課みどりの係(めぐろいきもの气象台)
電話:03-5722-9355(直通) FAX:03-3792-2112 E-mail:sizen@city.meguro.tokyo.jp

印刷 株式会社勝村印刷所
制作・編集 アオイ環境株式会社



(本冊子は区立図書館で閲覧できます)

